

令和3年度学校自己評価システムシート (県立戸田翔陽高等学校)

S07

目指す学校像	基礎的な知識・技能の習得を基本に、主体的に取り組む意欲、多様性を尊重する態度、他者と協働するための資質・能力を身につけた「人財」の育成を目指す学校
--------	---

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行い、生徒の学ぶ意欲を喚起して、学習の基盤となる「言語能力」を育成する。 2 かけがえのない存在、必要とされる存在としての自尊感情及び徳性を涵養させる。 3 探究する力を育て、多岐にわたる進路希望の実現を系統的・組織的指導で支援する。 4 学校外資源を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	2名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 学習意欲が高い生徒がいる一方、基礎学力の定着に課題がある生徒や日本語を母語としない生徒もいる。 【課題】 多様な学習歴を持つ生徒の実態を把握、学習意欲を引き出すことが課題である。	分かることが実感できる授業の実施により、学習意欲を向上させる。	①ICT 機器の活用とアクティブラーニングの授業の実施により言語能力を育成する。 ②少人数展開授業により生徒の学習理解を把握した授業を展開する。 ③多文化共生推進員、学習サポーター等による積極的な学習支援を実施する。	①ICT機器を活用した授業研修を行えたか。 ①ICT機器とアクティブラーニングを取り入れた授業を実践できた。 ②生徒の授業評価(年2回)において、理解度が向上したか。 ③成績不振者数を減らせたか。	○先進的な学習環境の構築を行えた。 ①全ての授業でICTを活用した授業を実施できた。講演会や学校行事でも同時双方向通信を活用し、円滑に教育活動を行えた。 ②生徒の授業アンケートでは授業満足(理解)度が4.0となり、教員の努力が反映された結果となった。 ③多文化共生推進員、学習サポーター等の学習支援、補修及び課題による個別指導や面談指導の結果、2学期成績不振者は昨年度より30%減少した。	A	ICTを活用した学習指導では、今後義務教育でタブレットを使用した生徒が入学してくることからICTを活用した効果的な学習活動を組織だて、全教職員で取組める環境づくりが求められる。
2	【現状】 学校生活は落ち着いているが、対人関係が苦手である、基本的な生活習慣が身につけていない、といった生徒がいる。 【課題】 成人年齢の低年齢化に伴い、規範意識を育成する最後の機会ととらえ、道徳教育を行う必要がある。多様な学習歴等を持つ生徒に対して自尊心を育て、内面を強くすることが重要である。	規律ある生活の確立と道徳心を育成する。	①全教職員による統一基準によるぶれない生徒指導を行う。 ②多様性を認めながら、道徳的価値観を育成できる研修会を実施する。	①校門指導等、教職員で実施できたか。 ②生徒の変化に気づき、組織的に早期に対応できたか。 ③中途退学者数を減らせたか。	○家庭、関係機関と連携し一人一人の指導・支援ができた ①毎日実施する正門指導により、正門で指導を受ける生徒は減少した。 ②中途退学者数は、ほぼ前年と変わらない。	A	基本的な生活態度を身につけるための指導は、今後も地道に共通認識の上、継続する必要がある。 生徒の心身に不調をきたしてしまう要因は様々である。この要因に対応すべく支援を、学校、家庭、関係機関と連携し、研究・十全する必要がある。
		自尊心と相手を尊重する心を醸成する。	①専門家による生徒理解を促進する教員研修会を実施する。 ②教育相談員、SC及SSWとの円滑な連携により生徒の自尊心を高める支援をする。 ③戸田かけはし高等特別支援学校との教育支援の連携を積極的に進める。	①多様な生徒の理解を深め、頼れる生徒相談が行えたか。(生徒アンケートによる) ②困っている生徒を早期に把握、関係機関、家庭と連携が取れたか。 ③特別支援教育についての理解を深めることができたか。	○特別支援教育研修により、教職員の技量が向上した。 ①特別支援教育巡回支援員の校内巡回により、相談室運営の支援を受けた。 ②担任、教育相談のスタッフと連携して対応できた。 ③戸田かけはし高等特別支援学校特別支援教育コーディネータを講師として招聘し、教職員対象の研修会を実施した。	A	
3	【現状】 進路実績は大学短大、専門学校、就職がほぼ同数であり、多様化している。 【課題】 進路指導部だけでなく、担任、年次、各教科が系統立てて進路に関わることで、時代の変化に対応した進路指導を行う必要がある。	生徒一人ひとりの将来を見据えた多様な進路に対応した指導を行う。	①「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の系統立てた実施により、生徒の進路意識を高める。 ②民間の学力診断テストの実施後、効果的な振り返りを行い、日常の学校生活へ還元する。 ③進路指導部、年次のみならず、全校を挙げて進路指導に取り組む。	①生徒に「進路の手引き」と「生徒手帳」を連携した将来設計に取り組めたか。 ②基礎力診断テスト実施後の結果と生徒へのフィードバックの研修を実施、生徒の学習意欲・進路意識向上につながれたか。 ③進路指導の満足度は高かったか。	○手帳を活用した進路指導を進められた。 ①「進路の手引き」は「産業社会と人間」において科目選択につながられた。卒業年次では進路活動や面接時の手引きとして活用した。「生徒手帳」は企業見学時、活用する姿が高評価であった。 ②習熟度別授業等基礎学力向上の取組で、D3の割合が減少、積極的な各種模試の受験で意識が向上した。 ③合格体験記から、面接指導・小論文添削などの成果に達成感を持っている旨の記述がみられた。	A	系統立てた探究活動、進路指導の研究・実践を行えた。 生徒手帳がデジタル化されることもあり、ICTを生かした探究活動・進路指導を行う必要がある。
4	【現状】 一昨年度に連携協定を浦和大学及び戸田市と提携した。また、昨年度から学校運営協議会をスタートさせている。 【課題】 入学者選抜において、志願者数が減少した。近隣地域へのPRの進め方に課題がある。	地域との連携により地域に根付いた学校づくりに取り組む。	①戸田市との連携を生かし生徒の活動成果をPRする。 ②コロナ禍においても学校運営協議会を円滑に運営する。 ③学校通信を3回発行し、近隣自治会に回覧する。	①市関係行事に生徒が積極的に関わることができたか。 ②時代の変化に対応した学校運営協議会が開催できたか。 ③学校通信を発行、教育活動の理解を深められたか。	○新型コロナウイルス感染症拡大により、昨年度に続き、地域との交流は大きく制限された。 ②運営協議会の対面実施はできなかったが、授業公開の見学を実施し、日常の学習活動の把握をしていただいた。	B	新型コロナウイルス感染症拡大の収束を視野に入れ、校内体制の再構築を進める必要がある。 本校の特色と強みを再認識し、積極的かつ持続的にPRを続けられる体制づくりが必要である。
		学校の特色を積極的にPRし、志願者を増加させる。	①積極的なホームページの更新、学校説明会を実施、教育活動のPRを行う。 ②アンケートを実施し、本校に対するニーズを把握する。	①ホームページ更新によりアクセス数を増やせたか ①学校説明会参加者の高い満足度は得られたか ②志願者数を増やせたか。	①例年にとらわれることない、ICTを活用した学校説明会により学校の教育力をPRできた。 ②12月15日現在の希望者数は、I部1.29倍、II部0.91倍、III部0.29倍(昨年度よりI部II部増)と増加した。	A	

実施日	令和4年 3月 17日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>成績不振者の減少は顕著な成果であると考えます。ICTの活用は先進的と伺っています。教職員だけでなく生徒がうまく活用できる方策を講じてください。様々な家庭環境や学習歴を持った生徒が在籍する状況であっても教職員の皆さんの積極的な取り組みが伺えます。</p> <p>自尊心の涵養には「達成感」が有効であると考えます。コロナ禍であっても感染対策を行いながら地域機関を活用できると良いです。 道徳教育は、もっと様々な考えの人の考えに触れられる機会があると、考え方が広がるのではないかと考えます。 相談室があっても行きにくい生徒もいると考えられるので、他に相談できる環境があるとよいと思います。</p> <p>自分の将来設計を考える時間が設けられていることは大切なことです。しかし、なかなか先のことをイメージしにくい生徒もいるのではないのでしょうか。進学では、A0入試など早めに準備をしなければならぬものもあります。早い段階から先輩の話を聞く機会を設け、意識を高められるとよいと感じました。</p> <p>コロナ禍において活動が制限されてしまっているのは残念である。地域機関でも窓口での展示で、生徒の活動をPRできる場所があるので積極的に活用してもらいたい。 戸田翔陽高校の教育システムは必要としている中学生は多いと思う。感染対策を十分に取ったうえで在校生(生徒会)が受付でパンフレット配布等に参加できるとよい。</p>